

令和5年度 高校生の作文コンクール



国土交通大臣賞

見えない HERO

山形県立山形工業高等学校 土木・化学科
たかはし りゅうの すけ
 土木技術コース 2年 高橋 龍之介



『みえない時間に、みえない場所で、みえない誰かを想い...』。この言葉はあるCMで使われていた曲の歌詞*の一部です。私が学ぶものづくりの世界、土木の世界はまさしく、この歌詞のとおりだと思います。それを、「誰にも気づかれない地味な仕事」と言われたり、「男社会のきつい仕事」と捉える人も中にはいるでしょう。でも、決してそんなことはないと思うのです。

私が工業高校、しかも土木の学科に入学しようと思ったきっかけは、水害を経験したことからです。私の暮らす地域の多くの場所で、床上・床下浸水が発生し、小屋が流されたり、橋に流木がつかえ、川の水があふれ出ました。五十年に一度、百年に一度の豪雨により、様々な被害が発生しました。私の家も沢からの水により浸水し、土砂によって池や畑が埋まりました。当時、小学一年だった私でもこの状況はただ事ではないと、不安や心配で怯えていたのを今でも鮮明に覚えています。明日どうなるのかもわからない中で、私にとって希望が見えたのが、地区中のあちらこちらで、毎日全力で復旧作業にあたる土木関係の方々の姿や、私の家の復旧に関わっていただいた建設業者さんや大勢のボランティアの皆さんの姿でした。夏休み中の出来事だったので、普段はなかなか見ることのない土木作業を間近で見ることができて、私自身初めて土木工事に対して興味を持つきっかけとなりました。それから後に家の裏に砂防ダムの建設が始まったり、土砂災害の出前授業を体験したり、身近でものづくり、特に土木の必要性和大切さを学ぶ機会をたくさん経験することができました。

水害での経験や、ものづくりに関わる経験は誰

でも得られるものではありません。私だから持っている貴重なものです。そんなことを考えたときに、工業高校で土木を学ぶことが自分らしい進路選択だと決断しました。高校では、土木についての知識や技術を学んでいます。今までであれば行けなかったダムの内部を見学したり、測量機器に触ったり、高校に入学してからの短い間で、今まででは考えられないような新しい経験をしながら日々学んでいます。そんな高校での時間や、私自身が人生の中で経験したことなどを織り交ぜてこの作文を書こうと考えたとき、ある事に気づきました。

水害の時に復旧に関わっていた建設業者の方々も、今現在学んでいる工業技術も、見えない誰かが毎日を笑顔で過ごすためのものだという事。普段誰にも気づかれなくとも、私たちが日常を過ごすために全力を注いでいるのが、土木のものづくりだということです。ものづくりは、見えないもの。見えない誰かを思って、今日も朝から働く工事関係者の皆さんこそ、私は世の中の真のHEROであると思います。なぜなら、HEROはそう簡単に姿を見せてはくれないのだから。

※出典：応援ソング 作詞：三菱電機ビルソリューションズ(株)CM制作チーム(旧三菱電機ビルテクノサービス(株))、2016年

